

## 令和4年度 前期入学式 式辞

夙川沿いに舞う桜の花びらと鳥の声に、爛漫の春を感じる今日の佳き日、ここに兵庫県立西宮香風高等学校令和4年度前期入学式を挙げていただくことは、本校にとってこの上ない喜びです。先ほど入学を許可しました201名の新入生のみなさん、入学おめでとうございます。この日を心待ちにしておられたご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。また、PTA代表をはじめご来賓の皆様にはご多用の中ご臨席を賜りましたこと誠にありがたく、高いところからではございますが厚く御礼申し上げます。

本校は平成13年に全国でも最先端の多部制単位制高校として誕生し、今年度22回目の春を迎えました。「西宮香風」という名前は、多部制単位制の弾力的な教育課程や教育内容によって生まれる伸びやかな学びの「風」が、香りそして広がることを期して命名されました。みなさんにも、本校での学びを通して個性を伸ばし、たくましさを身につけて、未来へ向けて飛躍することを期待しています。

さて、開校以来、本校は「多様性」を大切にしている学校文化を連綿と育んできました。多様性という概念は今や、本校のみならず私たちの社会全体にとっても重要なテーマとなっています。現在およそ200の国や地域で結ばれている「生物多様性条約」は、1994年以降、ほぼ2年に1回のペースで締約国会議を重ねています。野生生物の種の絶滅がかつてないスピードで進んだことを背景に、世界が大きな危機感を共有したからです。なぜ、危機なのか。それは多様性が失われていくのと同時に、生命を育み、生命を守る力も世界から失われていくからです。

生態系でも社会でも、多様性がある方がないよりも強くなる、といわれています。たとえば遺伝子にしても、ひとつの遺伝子がだめになっても、多様な遺伝子の中から別の遺伝子が生き残る仕組みがあれば、種全体として存続できます。またほかにも、社員集団の多様性の高い企業ほど利益率が高いという研究報告もあります。ある詩人は、花粉が虫や風によって運ばれることで植物の生命が広がっていく様を描き、「生命は自分自身だけでは完結できないようにつくられている」と語りました。そのような世界に生きる私たちが、多様性を大切にすることはむしろ必然とさえいええます。もちろん、それは決して容易なことではありません。国際社会が何回も話し合いを積み上げているように、私たち自身もまた、多様性について学び、経験を積み重ねていくことが必要です。互いの個性を尊重していくために、お互いにルールを守りマナーを身につけることも、きわめて重要な本校での学びのひとつです。

今、みなさんはおそらく新しい高校生活へのたくさんの期待と、それと同じくらいにたくさんの不安を胸にここにいると思います。そのようなみなさんの、すぐそばにいる西宮香風高校の先生方は、みなさんの話をたくさん聞いて、みなさんの学びを全力で、温かくサポートしてくれます。同じように悩んだり、喜んだりできる友達との出会いもあるでしょう。どうか安心して、高校生活の第一歩を踏みだしてください。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日よりみなさまの大切なお子様をお預かりすることになりました。教職員一同、全力をあげてお子様の教育に取り組む所存でございます。学校教育を円滑に進めるためには、家庭と学校との連携が必要不可欠です。どうか本校教育活動に対するご理解ご協力、そしてご支援を賜りますようお願いいたします。

本日、入学されたみなさん全員が本校で充実した日々を過ごされ、人として確かな成長を遂げられますことを祈念して式辞とします。

令和4年4月8日

兵庫県立西宮香風高等学校長 谷口 暢謙